

神戸市立鷹匠中学校 学校評価報告書

り学 の校 目づ く	誰もが楽しく学び、安心して過ごせる学校 美しく整備され、安全で学習環境の整った学校 保護者・地域に信頼される開かれた学校					
内容		重点的な取組み	評点 (4段階)	特記事項 (学校自己評価)	関係者評価 (学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等)	学校自己評価、関係者評価を踏まえた 次年度の重点的な取組みの案
育て たい 子 ど も の 姿	自ら考え、主体的に学び行動する生徒					
	思いやりが深く、友人を大切に し、自他の生命と人権を大切に する生徒（友愛）	生徒の状況に応じた題材の設定等を行 い、道徳教育の充実をはかる。 自己有用感を高める働きかけを積極 的に行う。	3	(教職員:3.1) (生徒:3.3) (保護者:3.3) 各学年、指導の重点を設定し、計画的に道徳 教育を行った。学年ごとに自己有用感の形成 を高める行事を設定した。	アンケートにおいて、1(不十分)2(どちらかと言 えば不十分)を選んだ生徒たちに、きちんと目を 向けてほしい。目立たないが、いろいろなことに 負担を感じている生徒たちがいるはずである。	道徳において身につけさせたい力（目標）を明確化 した計画を立て、実践する。教師側も、学校生活に おいて生徒の人権に配慮した発言・指導を常に心が ける。
	ルールを守り、マナーを身につ けた礼儀正しい生徒（自治）	集団生活において共生共助の力を培え るように、各自に役割を持たせ責任を 果たせるように指導を行う。	3	(教職員:3.2) (生徒:3.3) (保護者:3.3) 生徒主体の委員会の取り組みとして、あいさ つや時間を守るキャンペーン活動を行い、生 徒同士で声を掛け合っている。	鷹匠中のジャージを着たまま、塾へ行ったり電車 に乗ったりしているのを見かけることがあり、違 和感を覚える。	風紀委員を中心として、自分たちで学校生活を見つ めなおす場面を設定し、集団としての共生共助の力 をつけさせたい。校外での生活にも、鷹匠中生とし ての自覚を促す啓発を集会等で行う。
	意欲的に学び、よく考え、主体 的に判断して行動する生徒（責 任）	全国学調・神戸市学調の分析を行い、 弱点部分の克服に重点を置いた「グ ループワーク」を効果的に取り入れる 授業を研究する。	3	(教職員:3.1) (生徒:3.3) (保護者:3.2) 全国学調・神戸市学調の結果を分析、課題と 今後について10月の学校だよりで公表した。 課題克服に向けた授業実践を行っている。		R5年度の全国学調・神戸市学調の分析結果を受け立 てた弱点克服の授業実践の成果をR6年度の結果で検 証を行う。検証を受け再度、授業改善の計画を立て 実践していく。
全 市 的 に 推 進 す べ き こ と	①いじめ防止対策に関する取組 み	毎週、いじめ問題対策委員会を開催 し、各学年に、いじめ事案の有無の確 認及びいじめ認知後の指導・見守りを 継続して行う。	3	(教職員:3.2) (生徒:3.2) (保護者:3.2) 毎週いじめ問題対策委員会を開催でき、情報 共有・見守りができた。表面化しにくいSNS トラブルの対応に苦慮している。	SNSのトラブルは、気づいた時点で大きな問題に なっていることが多い。日ごろからの啓発が大切 で、青少協としても講演会を催したりしてトラブ ルの未然防止に取り組んでいる。	毎学期の「いじめアンケート」を複数の教師で確認 し、認知された場合、被害生徒へ最大限の配慮をし つつ、迅速かつ確実に対応する。また、日常生活 の中でキャッチカウンセリングを積極的に行う。
	②不登校支援の取組み	「ふれあい教室」での教室復帰向け た取り組みの充実をはかる。 生徒指導担当教諭を中心に関係機関・ 相談機関との連携を強化する。	3	(教職員:3.3) (生徒:3.1) (保護者:3.0) 不登校の要因が様々であり「ふれあい教室」 だけの対応では十分とは言えない。関係機関 には多数の生徒が通級している。	不登校の要因は、様々だと思うが、それぞれの生 徒に応じた対応をお願いしたい。	オンライン配信での授業参加、「ふれあい教室」で の活動、スクールカウンセラーへの相談、関係機関 （通級指導教室等）の紹介など、生徒の現状に即し た対応を丁寧に行う。
	③教職員の業務改善	部活動のあり方（活動の方法や期間） について検証をつづけ、職員の負担と 生徒の達成感のバランスを検討してい く。	3	(教職員:3.0) (生徒:3.2) (保護者:3.0) 電話対応は、平日18：00までをお願いしてい る。土日祝の部活動が、練習試合の場合に長 時間になることが多い。		業務改善を進めるにあたって、教職員の負担軽減 と、生徒への教育的効果（達成感など）のバランス を考えて行う。また、部活動について、今後の地域 移行に向けた取り組みを検討していく。
	④「すぐ-る」の活用、ホーム ページにおける情報発信	ホームページの掲載必須事項を最新の 状態に定期的に更新する。 「すぐ-る」でのリアルタイムでの情 報発信につとめる。	4	(教職員:3.6) (生徒:3.5) (保護者:3.5) ホームページは、常に最新情報をアップして いる。「すぐ-る」は、内容を簡潔に分かり やすく心がけた。	ホームページは個人的にはよく見ているが、閲覧 数がそこまで伸びていないのではないかと。「見ま した」の数も普段は20人ぐらいで生徒数が多い 割には少ない。	ホームページの情報は、最新のものに都度アップ デートを行う。「すぐ-る」のアンケート機能を活 用し、保護者会の出欠や同意書等ペーパーレス化 し、学校・保護者双方の負担の軽減を図る。
	⑤学校生活のルールや決まり （校則など）について	校則検討委員会(生徒指導係会)におい て、現状（社会情勢等）に即したル ールであるか定期的に検討を行う。	3	(教職員:3.4) (生徒:3.3) (保護者:3.3) 本年度、髪型に関するルールを大きく見直 したが特に問題はなかった。生徒の意見を聞く 場面が少なかった。		校則検討委員会を継続して設置し、社会通念上に見 合っているかを検証していく。また、生徒の意見も 反映できるように生徒会を中心に生徒自身で校則を 検討する場面を設定する。

【評点】 4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：どちらかと言えば課題がある 1：課題がある ※特記事項の数値は、評価者全体の評価平均値